

平成25年度「女性研究者研究交流会」開催報告

平成25年12月20日（金）
於・学術総合センター

平成25年12月20日（金）に学術総合センター（東京・千代田区）において「平成25年度女性研究者研究交流会」を開催しました。昨年度から実施している本交流会は、全国の高専に在職する女性の教員・技術職員が、日頃の教育研究活動やワーク・ライフ・バランスについてなどの発表・紹介を行ない、多様なロールモデルの提示および研究交流のネットワーク化を促進し、高専の教育研究活動の充実を目的としています。今年度の交流会は、年末という慌ただしい時期ではありましたが、各校の教職員のほかに他大学からも参加いただき、昨年度の

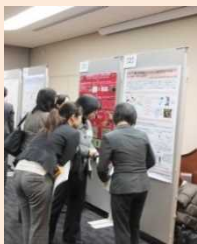


の参加者数を上回る総勢100名の参加がありました。また、研究発表では昨年の52名を越えた73名の発表者が、ポスターセッションにて自分の研究や教育活動、キャリアパスなど多くの参加者に紹介しながら、女性研究者同士の情報交換が盛んに行われていました。

★研究発表の様子（左）、会場の様子（右迂遠）

「プログラム内容」

■ 研究発表 I（ポスターセッション） 10:00～11:40



発表者36名の研究発表 I を10:00よりスタートしました。研究の発表だけでなく、日常の教育活動についても説明があり、多くの参加者が共感しながら、積極的に意見交換を行っていました。

★研究発表の様子

■ 開会、来賓挨拶、事業説明 13:00～13:20



主催者挨拶として、国立高等専門学校機構 小畑秀文理事長より高専での日頃の教育研究活動への尽力および本交流会参加への謝辞が述べられ、本交流会を通して有益な情報を得て、所属する職場に持ち帰り、自らより良い職場にすべく努力をしてもらいたいことや、高専がさらに女性にとって働きやすい職場になるべく、引き続き努力していきたいとお話がありました。続いて、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課 和田勝行人材政策推進室長より高専の研究力強化は、高専のみ

ならず、日本の科学技術イノベーション推進にとっても重要であることに言及され、引き続き研究強化を行い、研究成果を広く社会に広げるPR活動を積極的に取組むことへの期待や、機構本部だけでなく各高専のトップのリーダーシップによって意識改革が進み、女性にとって働きやすい環境を作ることが、日本の若手研究者のキャリアパスの一つにもつながっていくとの挨拶をいただきました。

次に、女性研究者研究活動支援事業取組責任者である奈良工業高等専門学校 上田悦子教授より女性研究者研究活動支援事業の説明として、女性の比率向上、女性教職員をつなぐネットワーク支援、ライフイベント期間中の研究活動支援、意識啓発について説明がありました。



★小畑理事長



★文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室 和田室長



★奈良高専 上田教授

■ 基調講演 13:20～13:55



今年度の基調講演は、独立行政法人科学技術振興機構 山村康子科学技術システム改革事業プログラム主管より「高専における女性研究者支援の意義」と題し、日本の女性研究者の現状や女性研究者の活躍を促進する上での課題、文部科学省による女性研究者支援・育成事業の説明、高専における女性研究者支援として教育研究機関連携の取組事例をご紹介します。そして最後に、女性研究者の新たなキャリアパスを増やすことにより次世代が育っていくことから、高専において次世代育成、新たなキャリアパス、女性研究者の研究活動を推し進めたいとの激励のお言葉を頂戴しました。



■ パネルディスカッション 14:00～15:20



パネルディスカッションは、パネリストの御手洗容子先生（物質・材料研究機構 環境・エネルギー材料部門先進高温材料ユニット構造機能融合材料グループ グループリーダー）、田村隆弘先生（徳山工業高等専門学校教務主事）、高橋晶子先生（仙台高等専門学校准教授）、コメンテータの山村康子先生（科学技術振興機構 科学技術システム改革事業プログラム主管）及びコーディネータの国立高等専門学校機構 五十嵐一男理事により「高専で女性研究者が活躍するための課題～一人ひとりの取組から考える～」について議論が展開されました。まず、御手洗先生よりご自身のキャリアイベント時での経験談と社会の現状をご紹介します。田村先生より外部資金獲得と研究活動の経験談や獲得ポイント及び高専の女性研究者が研究活動を継続・深化していくための課題と対応について報告いただき、高橋先生より自身の経験を通して培ったワーク・ライフ・バランスを保つための課題と対応をご紹介します。コメンテータの山村先生からは、人と人とのつながりが大事であり、Give and Takeの思考について言及され、支援制度には限りがあり、支援制度を活用したのちに女性研究者が研究を推し進め、自分の研究費で自ら支援員をつけるよう意識を持ってほしいなどの助言をいただきました。会場内からは、介護の課題、トップの意識改革、周囲の理解、研究と教育活動の環境作り、評価のポイント設定改善、時間の工夫支援などの多様な質問が寄せられるなど、活発な議論が行われました。



★物質・材料研究機構
御手洗先生



★徳山高専 田村教務主事



★仙台高専 高橋准教授



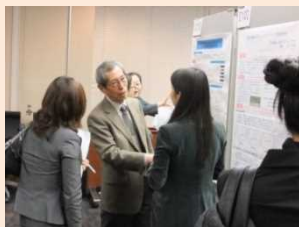
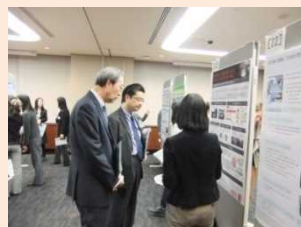
★パネルディスカッションの様子

■ 研究発表Ⅱ（ポスターセッション） 15:25～17:05



研究発表Ⅱが15:25からはじまり、37名の発表者がポスターセッションを行いました。研究紹介ⅡもⅠと同様、参加者同士の熱心に意見交換が行われました。研究や教育活動だけでなく、キャリアパスやワーク・ライフ・バランスについても多数の発表があり、専門分野、地域、年齢を超えた交流が盛んに行われました。

★研究発表の様子



★研究発表で説明を受ける文部科学省 和田室長と五十嵐理事（左）、小畑理事長（中）、会場の様子（右）

■ 閉会

本交流会の最後に、男女共同参画推進委員会委員長 岩熊まき理事より会場の熱気と総勢100名の参加者があったことの謝辞が述べられ、一人ひとりの取組みから変わることへの期待やネットワークを通じて力を合わせ、お互いの不足したところを補うよう激励のお話がありました。

